

十勝管内新得町舞台の映画 「空想の森」

一帯広在住・田代陽子監督

本当の豊かさ問う

十勝管内新得町で農業に携わる人々を追ったドキュメンタリー映画「空想の森」(田代陽子監督)が、東京で公開された。日々の悩みや喜びをユーモアを交えて丹念につづり、人の暮らしの本当の豊かさとは何かを問う作品。初監督となる田代監督は帯広在住。は「気持ち共有したり、何かが引っかかったりしながら見てもらえると思う。映画を通して人とつながりたい」と語る。

(栗山麻衣)

「空想の森」の一場面。子育てをしながら農作業に励む山田さん©2008空想の森上映委員会



通いつめて 気持ち共有 飾らぬ姿 生き生きと

映画の軸になるのりをする山田さんは、赤ん坊を育てながら家族で独立することを共働学舎新得農場で考え出すのだが。働く山田聡美さんとその夫、入植して約三十年タリ映画の面白さ年になる夫婦の二家を知り、深くかわる族。共働学舎で野菜作

森映画祭で、出会った人に魅力を感じたの撮影のきっかけ。ど暮らしたいかを考えた。北海道への移住を選んだ人が多い。生活を楽しみつつ、生き方を探したり、理想を求め続けたりしている人間の魅力を映像に残したかった。

八年ほど前から新得町に通い、共働学舎で交流を深めながら少しずつ撮影を始めた。作品の中心は、町の人と信頼関係を築いた上で集中して撮影した二〇〇五年から〇六年の約一年間の暮らしだ。畑で黙々と草をむしる作業や丁寧なチーズ作り、食事や酒、風呂の楽しみ、赤ん坊の成り、多くの思いが込め

長…。地に足を付けてらわれている。そう気付いた。被写体の人がいた」とほほ笑む。音楽は山田さんたちのバンド演奏を使用した。「当初は考えていなかったが、音が映像にはまった。いろいろな方をしてほしい」

「被写体の人たちと一緒に作った映画」と話す田代監督



090・9084・2058へ。